

○開催日時 平成29年12月11日(月) 18時30分～20時00分

○開催場所 大竹市総合福祉センター サントピア大竹1階会議室

【開会 18時30分】

◆次第3. 協議事項及び報告事項

平成29年度大竹市第5期障害福祉計画及び障害児福祉計画について

(事務局) 資料にそって説明

(委員長) ご意見、ご質問などございますか。

(委員) データについていろいろと伺いたいと思います。数字はそうなのでしょうが、何故の部分がどのくらい検討されているのでしょうか。例えば、人口は20年で5千人減少しており15%の減少なのですが、何故そのような現象になっているのか、今後の見込みはどのようにお考えなのでしょう。どんどん減ってくるとサービスばかりが増えていくのでその辺りの分析はどうなのでしょう。

また、精神保健福祉手帳の所持者が増加しているのは何故なのでしょう。

P33にありました「働くことは考えていない」という意見の割合が高かったのですが、それについて何故そうなのか、実際に難しい人もいるからそれは当然だというレベルの数字なのか、意欲のところで下がっていて、もしくは、これまでトレーニングの体制がないのでそうならないのか、そのような何故はどうなのだろうか。とかです。

P39の障害福祉サービス等に対する満足度について、障害児の満足度が低くなっています。子供に対して低いのは計画がこれからだから、なのか、その辺りはどうなのでしょう。

P15の「一般就労への移行の難しさ」について、就労継続A型、B型に通っている方はそこそこいますが、そこから一般就労につながっていないのは計画は目標1人が実績0人ということについて、計画通りでも1人と言うことかもしれませんが、その点のトレーニングの体制。地域へということに関しては、一般就労への移行が成立する方がより地域移行しやすいと思うのですが、その点はどうなのでしょう。以上がデータに関しての質問です。

また、地域生活への移行に関して、移行した方を支えるためのサービスが提供できる体制がどのくらいあるのでしょうか。一覧になっている資料、どこでどの様なサービスが受けられるのか。というリストができていのでしょうか。施設から外に出る場合、施設としては数が減るので民間の場合は経営が成り立つのでしょうか。心配してしまいます。

障害児が休日等過ごせるところがどのくらい必要なのでしょう。私自身あったらいいなと思う所は、学習をサポートしてくれる所。障害の部分を軽減できるような何かを支援してくれる所。過ごせる居場所があるのはいいことですが、子供時代にはそれほど必要はないと思います。それよりも発達の支援をしてくれる所があったらと思います。

(委員長) 只今の質問に対して、事務局よりお願いします。

(事務局) 人口の減少傾向と見込みについてですが、減少傾向は、将来推計とか年齢5歳ごとの5年間の生存率とか、出産する年齢などそのあたりで推計するのですが、社会現象と自

然現象のおそらく両方で、減少しているのだらうと思います。

次に、精神障害者の増えていることですが、ある程度、自立支援通院などで、精神障害者への周知が行き渡ってきたのだと思います。今までは身体障害・知的障害に比べて精神障害の方は手帳制度の周知が遅れていて、それが今だいぶ充実してきた結果、増えつつあるということではないかと考えています。

次の、33ページの「働くことは考えていない」という意見についてですが、年齢表を見ていただくと、身体障害の方は8割位が65歳以上なので、もう働くことを考えていないと思います。知的障害の方で多いのは、生活介護・就労Bに通っていて、それで満足されていて、それはサービスの範疇なので就労を考えていないのではないかと思います。精神障害の方については、身体障害・知的障害の方に比べて、日によって差が大きいので難しいのかと思いますが、具体的にはまだ把握しきれていないところです。

障害児の満足度が低いのは、やはり大竹市にサービス事業所が少ないからだだと思います。今、放課後デイサービスが2つあるだけなので、廿日市の方に通われている方が大半で、遠くまで行かないといけないという不満があるのではないかと思います。

一般就労への移行の難しさについては、就労Aと一般就労を行ったり来たりする方は、何人かいらっしゃるのですが、理解力・対応力に問題があるのかと思うのですが、1度ドロップアウトしてしまうとなかなか難しいのかなと思います。

地域移行のためのサービスのリストというのは、障害者手帳をとられる時に、大竹市内の事業所・サービス等の紹介をさせていただいています。今回、合同部会の際に地図も作っており、それも一緒にお渡しさせていただいています。

今、国の方針として施設より地域で、という方向で動いていますので、基本的には地域に帰すという目標を掲げているのですが、やはり、施設への依存度は高いので、なかなか減ってはこないと思います。施設も、今後増える見込みがないので、高齢化が進むにつれて、施設に入らないといけない人が増えてきます。施設側としては、待機者が多くて入れない状態の人が多く、運営が難しいということはないのではないかと思います。

(委員) 地域移行する人もいるけど、入ってくる人もそこそこいるということですね？

(事務局) そうですね。子どもが過ごせる場所は、確かに今放課後デイが問題になっています。施設がどんどん増えていき、サービス内容が千差万別で、ただ預かるだけのところとモチベーションをもって勉強を教えているところ、発達支援・訓練をしているところの差が大きいので、どうなのか、という話が県、国からも入ってきています。ただ居るだけのところもあっていいのかもしれませんが、おっしゃるとおり、やはり学習や生活訓練をしてくれるところが必要と思います。

(委員長) ただいまの説明でよろしいでしょうか？

(委員) はい、基本的に大丈夫ですけど、数が多かったり、増えたり減ったりとか変化の大きいところに関しては、いろいろ要因など考えておかないと先の見通しということになるかと思い、気になったので。

あとひとつ、新規に何かを作るような計画に関して、どのくらい見通しとして、あるのかということについて、いかがでしょうか。

(事務局) 新規については、事業内容に関して、まだ国から明確に伝わっていないので、まだ把握しきれていません。今後わかりしだい詰めていこうと思っています。

(委員長) その他、ありませんでしょうか？

◆次第4. その他、情報交換

(委員) 11月19日、知的障害者福祉大会広島県大会の大竹大会が無事終了いたしました。ご協力ありがとうございました。関係者の方々にはいろいろとお世話になりました。予定どおりの方々が、会場いっぱいになるくらい、いらっしやいました。喜ばしいことではあるのですが、やっぱり関係者の方ばかりで、一般の方々にも声かけしていただいたんですが、なかなか一般の方々にはご興味を示していただけないというところがあります。今後さらに、この自立支援協議会も含めて、障害者への理解ということを進めていきたいと思っております。ご協力よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(委員長) 事務局からお願いします。

(事務局) 今後の予定ですが、第3回目の自立支援協議会を2月末ごろに予定しています。計画の数値も、29年度のできるだけ最新のものをに入れて報告させていただきます。よろしくお願いします。事務局からは以上です。

(委員長) 以上をもちまして平成29年度第2回大竹市地域自立支援協議会を終了いたします。皆さま、ご協力ありがとうございました。

【閉会 19時45分】